

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：33934

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520768

研究課題名(和文) 児童の英語に対する動機づけと異文化に関する態度特性から考察する小学校外国語活動

研究課題名(英文) A study about pupils' motivation toward English and communicative and affective attitudes toward different cultures

研究代表者

安達 理恵 (ADACHI, Rie)

愛知工科大学・工学部・准教授

研究者番号：70574052

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円、(間接経費) 390,000円

研究成果の概要(和文)：小学校数校で、外国語活動時間の増加時期に動機づけや情意要因を調査した結果、児童の関心、熟達願望などの動機づけに関する項目は変わらないか低下傾向、対立関係改善や非言語のコミュニケーションなど異文化の相手とのコミュニケーション態度も低下傾向にあり、活動時間が増えるほど動機づけやコミュニケーション態度を高めるのは困難、動機づけに影響を与える要因は、「学習意識」(英語に対する自信、英語学習に対する努力信念などで構成)と学習者の「身近な人々」の励ましであり、コミュニケーション態度にも「学習意識」と「身近な人々」が影響を与えて、男子より女子の方が動機づけ及びコミュニケーション態度を維持していた。

研究成果の概要(英文)：This study investigated pupils' motivation toward English, communicative attitudes toward different cultures and other affective attitudes at some elementary schools when the number of classes of "foreign language activities" was increasing. The result shows as follows. 1) Pupils' motivation tended to decrease a little. 2) Their communicative attitudes also tended to decrease. Therefore, the more pupils experience "foreign language activities," the more it would be difficult for teachers to make pupils raise their motivation and positive communicative attitudes. 3)4) The two factors affecting motivation and communicative attitudes were "Attitude toward learning" and "People around the learner." The first factor includes a confidence in English, the value of effort and so on. The second factor refers to the encouragement from peers, teachers and parents. 5) The girls maintained their motivation and communicative attitudes more than the boys.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語活動 動機づけ コミュニケーション 小学校英語教育 異文化 情意要因 性差 学級担任

1. 研究開始当初の背景

本研究は、小学校での外国語活動が正式に始まる前の、英語を中心とする外国語の授業時間数が増えている時期に、小学生の英語に対する動機づけを中心とする情意要因は、どのように変化するかについて調べるため、調査・分析をすることにしたものである。

小学生の英語に対する動機づけや異文化の人に対するコミュニケーション態度、学習に関する意識などを調査し、また活動時間の増加によってそれらの情意要因はどのように変化するか、さらには、動機づけやコミュニケーション態度とそれらに影響する要因の構造的な関係を、英語使用者の多様性という視点も含め、明らかにしようとした。

2. 研究の目的

本研究では、小学生の動機づけやコミュニケーション態度、学習に関する意識を調査し、現行の外国語活動における小学生の動機づけを中心とする情意要因やコミュニケーション態度の時間数増加に伴う変化、および動機づけやコミュニケーション態度に影響する要因との構造的な関係を解明・分析し、総合的に考察することで、現行の外国語活動の意義と実施上の課題を提示することを目的とした。

具体的には、小学生の英語に対する動機づけや学習に関する意識などが、活動時間が増えるにしたがって、どのように変化し、動機づけやコミュニケーション態度には、どのような要因が影響しているかを調査し、さらに小学校数校において実践されている外国語活動の特徴を踏まえて考察することで、望ましい外国語活動の在り方、今後の課題を提示することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 小学校数校の担当者に依頼・説明して、小学校5、6年生を対象に動機づけ、学習意識、学習者の周りの人々の影響、外部者に対するコミュニケーション態度、志向、英語の重要性意識など計34項目からなるアンケートを担当の先生経由で実施した。質問紙収集・データ入力後(以前の奨励研究で実施)、分析は主に統計ソフト、SPSSおよびAMOSを使って行った。

(2) 分析は、調査を一番始めに実施した1小学校で、まず各項目の経年変化を検討すると同時に、動機づけや各要因に対しては、内的整合性を検討し、尺度得点を計算した上で動機づけ尺度やその他の尺度との関係について、共分散構造分析などを用いて、要因間の関係を調べた。そして主に動機づけを予測する影響要因を検討した。

(3) 1小学校だけでは、結果を一般化するのに課題があるため、同様に、他の3つの小学

校でも、各項目の年度前後の変化、および、年度の始めと終わりに調査できた2校の学校をまとめて動機づけや外部者とのコミュニケーション態度に対する影響要因の関係を分析した。また学校による違いも検討した。

4. 研究成果

(1) 各小学校での、動機づけや英語学習に関する意識についての特徴としては、いずれの小学校でも外国語活動が増加した後で、それほど大きな違いはなく、比較的高い動機づけを維持していた。学校別の違いについても、動機づけに関しては大きな違いは見られず、どの小学校においても、児童は学校での外国語活動に対して、概ね肯定的姿勢があると考えられた。但し、動機づけのうち、学校外でのテレビやラジオでの英語の番組視聴に関しては、活動増加の前後いずれでも、またどの小学校でも、あまり積極的ではなかった。

(2) 動機づけに影響を与える要因の分析では、ほぼどの小学校でも、学習意識(わかるようになったという自信や頑張ればできるという信念など)の影響が最も強いと考えられ、次に、身近な人の影響(親や教員の励ましや友達の姿勢)が、児童の活動に対する姿勢に影響すると考えられた。

(3) また、3年間に亘って調査した1小学校では、活動時間が増えた2年目では、比較的高い動機づけが高まる傾向があったが、3年目は、増える前の1年目の状態に戻り、一方英語に関係のないコミュニケーション態度は年々減少したので、このことは、外国語活動が増加すると、効果が高くなるというより、むしろ児童が活動を英語学習と意識しつつあることを示唆すると考えられ、増加したことについての効果はあまりないと考えられた。

(4) この3年間調査した1小学校では、動機づけを予測する要因は、3年間共に影響が大きかったものは、多様な学習意識と学習者の周りの人々の励ましであった。このことから、児童が自信を持ち、達成感の得られる活動であることや、多言語に関心をもつような機会が重要と考えられた。さらに、周りの人の影響は3年間で徐々に大きくなったことから、クラスの雰囲気は時間が増えるほど重要になると考えられた。

(5) 活動時間が急に増えた年度の前後で、同一の小学校2校で動機づけと英語の重要性について比較したところ、あまり大きな変化はなく、担任による活動時間が増加したことによる悪影響はないと考えられた。但し、英語に対する重要性などでは一部有意に高くなっていた。そして動機づけは変わらないのに、重要性は高まったということは、次第に活動を学習として捉えるようになってきているのではないかと考えられた。

(6) また、3小学校を集計した動機づけモデルでは、動機づけに直接影響していたのは、やはり学習態度であり、それには、身近な人々が影響していた。これらから、児童の英語に対する動機づけを高めるためには、積極的な学習態度を目指し、教師や友達が共に積極的に活動に関わり合える、より良い教室の雰囲気作りが必要と考えられた。

(7) その一方、対立関係改善や非言語のコミュニケーションなど異文化の相手とのコミュニケーション態度を調査したところ、低下傾向にあり、外国語活動時間が増すほど、異文化の人に対する積極性を高めるのは難しくなると考えられた。またコミュニケーション態度に影響を与える要因についての分析結果も、動機づけ同様、「学習意識」に影響を受けており、3年間調査した学校では3年目に「身近な人々」の影響も受けていた。

(8) 最後に性差について分析したところ、女子の方が、動機づけとコミュニケーション態度ともに高い傾向がどの学校でも見られた。

まとめると、動機づけにもコミュニケーション態度にも、学習意識や身近な人の影響が大きいことからすると、どのように活動を実施していくのか、担任の指導力量や指導内容が今後、大きく影響していくと考えられた。このことは、活動時間が増えると、児童は、教師や友達などの学習環境に影響をより受けやすくなることを示している。したがって、本研究によると活動時間増加に伴い、動機づけの向上が難しくなり、さらに女子に比べて男子はより難しくなることから、授業時間が増えても、また男子でも、動機づけやコミュニケーション態度を維持か向上できる活動の検討が必要と結論づけられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

安達理恵, 小学校外国語活動: 外国語学習の初めに学習者をどのように動機づけるか 外国語活動の課題, 語学教育エキスポ 2014 予稿集, 査読無, 2014, p.6

安達理恵, 小学校外国語活動における児童の英語に対する動機づけと異文化に関する態度特性に関する実証的調査研究の総括, 語学教育エキスポ 2014 予稿集, 査読無, 2014, pp.68-69

酒井志延・相澤一美・安達理恵, 小学校外国語活動指導者意識調査結果, JACET 問題教育研究会 2013 年度報告書「英語教師のためのポートフォリオの普及と英語で授業を行う能力規準に関する実証的研究」, 査読無, 2014, pp.25-41

西田理恵子・安達理恵・カレイラ松崎順

子, 小学校外国語活動における動機づけと情意要因に関する研究と実践 実証研究の蓄積と今後の展望, 外国語教育メディア学会関西支部 メソドロギー研究部会報告論集, 査読無, 第4号, 2014, pp.63-74

Rie Adachi, Pupils' changes in communicative attitudes toward English activities -A case study at a Japanese elementary school, 全国英語教育学会紀要 (ARELE) 第24号, 査読有, 2013, pp.221-234

Rie Adachi, The motivational model of young Japanese EFL Learners: After getting lessons by homeroom teachers, 単著, Conaplin Journal (Indonesian Journal of Applied Linguistics) Vol.2, No. 2, 査読有, 2013, 156-167

安達理恵, 外国語活動時間増加に伴う小学生の動機づけとコミュニケーション態度 -小学校での長期的調査事例研究, 中部地区英語教育学会紀要 第41号, 査読有, 2012, 125-130

Rie Adachi, A motivational model in Japanese elementary students' foreign language activities, 外国語教育メディア学会紀要 (LET Journal) 第49号, 査読有, 2012, 47-64

Rie Adachi, The effect of increased English activities on sociocultural attitudes and intercultural communicative attitudes of young Japanese learners, 大学英語教育学会紀要 (JACET Journal), 第52号, 2011, 査読有, 1-18

http://www.jacet.org/journal/JACET_Journal_52.pdf

Rie Adachi, A structural equation model of motivation and attitudes of young Japanese foreign language learners, 外国語教育メディア学会紀要 (LET Journal) 第47号, 査読有, 2010, 205 - 226

安達理恵, 小学校外国語活動における動機づけの変化 担任による活動時間増加に伴う変化を中心に, 中部地区英語教育学会紀要第38号, 査読有, 2010, 71-78

〔学会発表〕(計13件)

安達理恵, 小学校外国語活動: 外国語学習の初めに学習者をどのように動機づけるか 外国語活動の課題, 語学教育エキスポ 2014, 2014年3月, 早稲田大学

安達理恵, 小学校外国語活動における児童の英語に対する動機づけと異文化に関する態度特性に関する実証的調査研究の総括, 語学教育エキスポ 2014, 2014年3月, 早稲田大学

西田理恵子, 安達理恵, カレイラ松崎順

子, 小学校外国語活動における動機づけと情意要因に関する実証研究の蓄積と今後の展望, 協同発表, 外国語教育メディア学会 (LET) 第 53 回全国研究大会, 2013 年 8 月, 文京学院大学

Rie Adachi, Pupils' change in communicative attitudes toward English activities - A case study at a Japanese elementary school, 第 38 回全国英語教育学会愛知研究大会, 2012 年 8 月, 愛知学院大学

Rie Adachi, Japanese elementary students' motivational and communicative attitudes toward English activities, 大学英語教育学会第 51 回国際大会, 2012 年 8 月, 愛知県立大学

安達理恵, 外国語活動時間増加に伴う小学生の動機づけとコミュニケーション態度: 1 小学校での長期的調査事例研究, 中部地区英語教育学会, 2011 年 6 月, 福井大学

安達理恵, 小学生の外国語活動における動機づけモデル, 外国語教育メディア学会, 第 51 回全国研究大会, 2011 年 8 月, 名古屋学院大学 (白鳥)

Rie Adachi, The difference of sex and age on Motivation and Sociocultural attitudes among Japanese young EFL students, The 9th Asia TEFL International Conference, 2011 年 8 月, Hotel Seoul KyoYuk MunHwa Hoekwan, Seoul

安達理恵, 小学校外国語活動で伸ばしたいコミュニケーション能力, 第 2 回英語教育総合学会シンポジウム「動き出した小学校英語活動」- 小中連携の言語的基盤 - における招待講演, 2011 年 12 月, 大阪大学大学院 言語文化研究科

安達理恵, 小学生の外国語活動増加による社会文化意識およびコミュニケーション態度への影響: 外国語活動増加の課題, 大学英語教育学会中部支部, 2010 年 6 月中京大学

安達理恵, 小学校外国語活動体験と動機づけ 活動形態の影響, 外国語教育メディア学会, 第 50 回全国研究大会, 2010 年 8 月, 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

Rie Adachi, Motivation and Sociocultural Attitudes of pupils learning English in Japan: Beyond Integrative and Instrumental orientation: Intercultural orientation, 2010 年 8 月, The 8th Asia TEFL International Conference, La Thanh Guest House in Hanoi, Vietnam

Rie Adachi, Communicative attitudes as WTC with outsiders of pupils learning English in Japan, 大学英語教育学会中

部支部, 2010 年 12 月, 中京大学

〔図書〕(計 2 件)

安達理恵, 「第 16 章 小学校外国語活動で求められるコミュニケーション能力 グローバル化時代に生きる日本人を目指して」, 『小学校の英語教育の行方』河原俊明・中村秩祥子編著, 他 21 名, 明石書店, 346-369, 全 418 ページ, 2011.

安達理恵, 「第 10 章第 12 節 初等・中等教育で 小学校での異文化理解を目的とした英語活動の実践」, 『英語教育学大系 第 3 巻 英語教育と文化』塩澤正・吉川寛・石川有香編著, 246-248, 全 278 ページ, 2010.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安達理恵 (ADACHI, Rie)

愛知工科大学・総合教育センター・准教授

研究者番号: 7 0 5 7 4 0 5 2